



2024 年度事業計画

自 2024 年 4 月 1 日

至 2025 年 3 月 31 日

学校法人多摩美術大学

学校法人多摩美術大学事業計画

中長期計画に基づく、目標達成のための2024年度の主な事業計画は以下の通りである。

| 中長期基本計画 |
|------------------------------|
| (A) 国際的な美術家、デザイナー、教育者育成の環境整備 |
| (B) 国際交流の推進・制度化 |
| (C) 専門性と総合性の融合を目指した改組による教育改革 |
| (D) 学生受け入れ態勢の強化 |
| (E) 美術大学の教育及び研究内容の社会伝達と浸透 |
| (F) 教育及び研究体制の整備と再点検 |
| (G) 教育・研究環境の充実に向けたキャンパス整備 |
| (H) 社会・地域連携の拡大 |
| (I) 管理運営の強化 |

(1) 教育・研究運営面の推進計画

◆教務部

【教務課】

- ① 共通教育科目の教育課程の見直し (C)
前年度に引き続き、リベラルアーツ運営委員会の議論により、総合性を担う共通教育科目の教育課程の見直しをする。科目の改廃や分野の人員配置について検討し、見直す。
- ② 大学院修士課程のダブルディグリー制度の実施 (A)
シラパコーン大学と大学院修士課程のダブルディグリー制度について、2025年度の受入・派遣に向け体制を整備し、実施準備を行う。
- ③ オンライン科目（オンデマンド配信）・授業の充実 (C)
オンライン科目（オンデマンド配信）やオンライン授業の実施要件を見直し、教育の質を高める取り組みを行う。
- ④ 大学基準協会の認証評価結果への対応 (C)
2022年度認証評価結果について、3年後の「改善報告書」に向けた課題検討を行う。授業評価アンケートを再開し、大学Webサイトで公開する。

【入試課】

- ① 入学者選抜の制度を整備し志願者の確保につなげる（継続） (D)
・他大学との各選抜試験における日程の調整をする。

- ・入試 PT 等を通じて試験科目・試験時間の検討を提案
 - ・高等学校新学習指導要領に対応した大学入学共通テストの出題教科・科目について検討する
 - ・外国人留学生選抜、大学院修士課程選抜における 1 次選考導入の検討
 - ・大学院修士課程選抜の選考方法の再考と内部進学率の向上
 - ・指定校推薦入試の再検討
- ②出願資格審査の整備 (D)
- ・本学出願資格の再確認
 - ・文科省「大学入学資格」の再確認
 - ・外国人留学生、海外学校卒業者の出願資格審査方法整備
 - ・受験生の多い中国の教育システム調査
 - ・募集要項の整備
- ③学生募集及び入学者選抜の情報提供方法の改善 (継続) (D)
- ・選抜ごとの学生募集要項構成見直し
 - ・入試概要 (本学サイト) や入試ガイド等に変更内容がわかりやすく案内できるよう校正等を行う (継続)
 - ・WEB 出願システムの改修内容を検証する
- ④一般選抜の運営方法と事務組織の検討 (D)
- ・業務運営体制の見直し (願書受付～入学手続きまで)
 - ・一般選抜における事務組織と業務の見直し
 - ・一般選抜における実施経費の削減
 - ・一般選抜の日程変更に伴う運営見直し
- ⑤特別選抜、大学院選抜の運営を再検討 (継続) (D)
- ・各選抜での業務運営体制の構築と出願処理作業の見直し
 - ・学内協力体制と業務委託内容 (外国語能力) の見直し

【研究支援課】

- ①持続的な研究資金獲得を目指し、競争的研究費獲得のための支援体制強化 (F)
(H)
- ・科学研究費助成事業をはじめとする競争的研究費を獲得する教員を増やすため、外部業者による支援サービスの内容を見直し、支援を強化する。
 - ・研究を推進するため、専門職(URA)雇用も含めた、PDCA サイクルによる支援体制の見直しと強化を行う。
 - ・SDGs 等の社会課題に貢献する産学官連携活動を継続的に実施し、産学官連携による共同研究を活性化する。
- ②学内研究活動の支援プログラム活性化と研究活動の積極的な PR による研究力の強化 (E)
- ・学内における学科横断の共同研究制度、科研費の応募件数増加のための奨励費制度

など、学内研究費制度について継続的に実施する。

- ・競争的研究費を獲得した研究及び産学官共同研究の内容について、ホームページの内容を見直し、PRを強化する。
- ・教員の研究派遣制度による研究者派遣により、研究紀要等への論文投稿や科学研究費助成事業の応募などに繋げていく。

③研究不正、研究費の管理体制及び産学連携に係る各種ガイドラインの遵守によるリスクマネジメント体制の整備 (I)

- ・教員及び学生への研究倫理教育の実施にあたり、研修会、ハンドブック等を見直し、内容を充実させる。
- ・研究活動及び産学連携活動に伴うリスクマネジメント体制強化のため、研究データの適正な管理などに関する研究者への支援を強化する。
- ・研究倫理、安全保障輸出管理、利益相反等に関する啓発活動を定期的実施する。

◆学生部

【学生課】

①「これからの学生支援に関する方針」に基づく適切な支援の実施 (D)

- ・学生の修学に関する支援の実施（休退学希望者の状況把握と対応、欠席過多や成績不振の学生の状況把握と指導、障がいのある学生に対する修学支援）
- ・課外活動（クラブサークル）や学生主体の学事（芸術祭等）を充実させるための支援と地域連携の強化
- ・学生の住環境に配慮した適切な支援の実施（学生寮の運営等）
- ・学生生活調査の結果や意見箱等により、学生支援の現況について検証する。
- ・国際交流センター、キャリアセンターとの連携による学生支援の強化

②奨学金その他の経済的支援の整備、授業その他の経済的費用に関する情報提供

(D)

- ・本学独自の給付型奨学金・授業料減免制度の整備と情報提供
- ・日本学生支援機構奨学金の適切な運用と情報提供
- ・ワークスタディ奨学金の運営強化
- ・地方公共団体・民間奨学金の積極的な情報提供とエントリー指導による応募者や採用者数の増加
- ・チューター制度の2025年度本格導入に向けた試行（国際交流センターとの連携）

③学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮 (D)

- ・学生課・保健室・学生相談室間の連携強化
- ・保健室による健康相談・感染症や疾病対策など情報発信の充実
- ・合理的配慮を必要とする学生にとっての満足の高い対応
- ・学生の相談に応じる体制の整備（学生相談室の相談対応、学生のための法律相談実施、ハラスメント防止に向けた相談等体制の整備）

【国際交流センター】

- ①新規海外協定校の増加 (B)
 - ・Cumulus(国際美術・デザイン・メディア大学連合)の加盟により、国際的な本学知名度向上
 - ・国や地域のバランスを考慮した上での、新たな海外協定校の増加
- ②海外大学への積極的な働きかけによる交換留学生の受入れ等の増加 (B)
 - ・海外協定校の交換留学対象学科を拡大し、交換留学生の受入・派遣人数の増加を狙う。
 - ・交換留学制度に留まらない、共同授業・ワークショップの実施
- ③学生が留学しやすくなる制度設計 (A) (B)
 - ・交換留学派遣時期の多様化
 - ・オンラインによる海外プログラムの実施
 - ・学生に対する英語検定試験受験料一部補助
- ④国際交流センターのサポート体制の充実 (B) (D)
 - ・外国人留学生および保護者に対する英語・中国語・韓国語での対応
 - ・外国人留学生に対する本学WEBサイトおよびSNSを活用した情報提供
 - ・各学科・各課からの依頼に対するサポート向上
 - ・英語力向上を求める学生に対して、勉強方法指導・英会話の場を提供
 - ・チューター制度の導入
- ⑤外国語に接する機会を増やす環境づくり (A) (B)
 - ・学生に対する英語検定試験受験料一部補助
 - ・冊子「Talking About Design」作成
 - ・国際交流ラウンジ活用方法の検討
 - ・国際交流パーティー実施による日本人学生と海外留学生の交流促進
 - ・英語や海外文化に触れる機会となる短期語学留学プログラムの実施

【キャリアセンター】

- ①多様化するキャリア支援 (F)
 - ・タマキャリ登録者数を在学生の60%超えとする。
 - ・キャリア相談の諸問題解決にSNSを利用
 - ・アーティスト支援講座の分野拡充
- ②教員および研究室との連携強化 (F)
 - ・全学科でのキャリア支援の現状・要望等ヒアリング実施
 - ・学科・学年別のガイダンス実施
- ③キャリアセンター認知度向上 (F)
 - ・オリエンテーションやイベントでのセンターの活動の周知
 - ・キャリアセンター広報誌の作成の定期化
- ④外国人留学生への進路・就職支援／配慮を要する学生への進路・就職支援 (D)
 - ・SPI等の筆記試験の外国人留学生向け対策支援

- ・配慮を要する学生のデータ部内および学生相談室共有

◆附属図書館情報センター

(図書)

①美術大学の図書館にふさわしい蔵書の構築と学生・研究者への支援 (A) (F) (H)

- ・芸術を中心とした特色ある蔵書構成の構築
- ・STEAM 教育の一翼を担う資料外国語や留学生向けの資料
- ・キャリアやメンタルヘルス関連の資料の充実をはかる

②利用者サービスの充実 (G)

- ・ガイダンスの充実、授業連携の呼びかけ、WEB コンテンツの充実で利用者教育と利用者サービスを結ぶ。
- ・展示を利用した図書館資料の紹介を通して利用者の資料への興味を喚起する。

③発信と協働・連携 (E)

- ・WEB サイトからの情報発信と情報公開の強化
- ・学科推薦図書や、授業単位のガイダンス、授業での展示など研究室や学生との連携・協働
- ・リポジトリの運用

④運営・管理の体制 (G)

- ・職員構成を考慮した図書館運営の見直し
- ・書庫狭隘化対策・学生の快適な学習環境の保持

(情報)

①業務システム更新や機能移行 (F) (I)

- ・出席管理システムの更改
- ・学内メールシステムの Gmail 移行
- ・統合認証基盤、SSO (シングルサインオン) パッケージの調査

②キャンパスネットワークの更改 (F) (G)

- ・リベラルアーツセンター・レクチャーホール・芸術学棟・デザイン棟無線 LAN システムの導入
- ・コアスイッチ更改
- ・サポート切れスイッチ群の更改

③サーバシステムの更改 (F) (I)

- ・サーバ OS サポート切れ対応
- ・サーバの集約と仮想化の是正
- ・汎用ネットワークサービスのクラウド化

④図書館と学内施設が所蔵する資料、機関リポジトリ、インターネット上の学術情報などの統合 (F) (H) (I)

- ・所蔵資料、機関リポジトリ、インターネット上の学術情報のリスト化

- ・多様な媒体や形式で提供されている学術情報の収集、蓄積、提供に向けた調整

◆附属美術館

①博物館実習 (F)

- ・本学学生約 100 名を受け入れ、博物館学芸員資格取得に必須となる実習を行う。
- ・個別実習 (約 12 グループ・各グループ 5 日間)
- ・全体実習 (3 講座)
- ・特別講座 (外部施設の研究員・学芸員の解説付き実地見学：東京国立博物館他) を実施。

②アートテークギャラリー運営 (H)

- ・約 20 団体による展示を予定
- ・各団体との連絡・実施対応
- ・追加申請対応
- ・2025 年度後期～2026 年度前期の利用団体決定
- ・アートテークギャラリー施設の維持管理

③作品データベース構築 (F) (I)

- ・実見調査により付与された収蔵番号 (TAUM 番号) 及び実作品情報をデータベースと統合
- ・DB のウェブ一般公開までに必要となる作業プロセスにつき、レコードをテストケースに実装し、フィードバックを行う
- ・紙台帳の整理、TAUM 番号との紐付け
- ・職員の利用促進 (セキュリティ対策なども含む)

◆附属メディアセンター

【事務室】

①Adobe Creative Cloud 利用促進支援 (F)

- ・新入生の利用登録作業を円滑に行う (メールアカウント付与を行う図書館情報センターとの連携)
- ・旧アカウント (MC メール) の終了と該当学生の移行サポート
- ・在学生への利用方法周知の見直し
- ・初心者向けの講習会 (Too へ依頼) の実施

②コンピュータスタジオの環境整備・運営 (F)

- ・サポートスタッフへの教育・自由利用の促進
- ・各学科・各課への利用促進
- ・機材 (音響関係・学生使用の椅子等) の整備
- ・情報センターからの機材管理等の業務引継ぎ
- ・2025 年度の PC 更新に向けた計画

【映像センター】

- ①学生利用施設としての運用 (F)
 - ・ 基材管理・記録メディアの貸出
 - ・ 学生利用、制作目的利用 PC の管理と施設提供
 - ・ 2023 年度の利用人数がコロナ以前、映像センター史上最多となり利用者が増えたことによる機材貸出への制限や返却遅延の対応と管理
- ②貸出機材の更新と手入れ (F)
 - ・ 現在貸出機材としている 2017 年度以前に納品された機材リストの制作
 - ・ シネマカメラの周辺機器準備
 - ・ ミラーレスカメラの機材入れ替え ($\alpha 6000$ 、 $\alpha 6100 \rightarrow \alpha 6600$ 、 $\alpha 6700$ に変更)
- ③施設、受付の更新 (F)
 - ・ 「映像スタジオ/撮影スタジオ」の環境美化。データメンテナンス
 - ・ 照明類のメンテナンスとスタジオの環境整理
 - ・ 「映像センター」の窓口レイアウト、返却カウンターの設置と共に機材相談カウンターとしての利用
- ④studio FabCAVE との連携 (F)
 - ・ 希望学生が映像センターで製作した 3D データを fabCAVE で出力を行う際の問題共有
 - ・ ワークショップを通して学生に背作環境を体験・紹介

【写真センター】

- ①施設・機材の有効活用 (F)
 - ・ 管理施設・機材の各科授業への提供
 - ・ 一部授業については講習と実習をサポート
 - ・ 授業以外の時間帯は学生の自由使用時間とし、制作に必要な施設・機材を提供
- ②講習会の開催 (F)
 - ・ 写真制作に必要な知識や技術の習得、また施設・機材の有効利用のため各種講習会を開催
 - ・ 定期的に行われる講習で補え切れない相談や希望には個別で随時対応
- ③貸出機材の更新 (F)
 - ・ 主にデジタル関連機材の更新と拡充。フィルム関連については現状を維持
 - ・ ニコンミラーレスカメラ用広角ズーム、望遠ズーム (+テレコンバーター)、マクロレンズを追加し、各種要望への対応を拡大
- ④施設・設備の更新と維持 (F)
 - ・ 各施設・設備の随時メンテナンス。
 - ・ ライティングソース拡大のため、モノライト Profoto A2 を 2 灯追加
 - ・ Profoto A2 用のライティングツール各種追加
 - ・ 学生利用設備として、A3 ノビ対応の写真・グラフィックスキャナーを追加

【工作センター】

(八王子)

①運営 (F)

- ・安全衛生診断に基づき安全第一の運営を行う。

②利用時間・方法 (F)

- ・工作センターを利用する授業科目・課題の担当教員は、利用者の名簿・工作センター利用期間及び時間帯・希望工作機械の機種・作業内容等の詳細を記載した「打ち合わせ内容確認書」を提出する。また、その内容について工作センターと事前に打ち合わせを行う。
- ・全学的に 8:50～17:00 を利用時間とし、学年ごとの利用時間の区切りをないものとする。
- ・時間外での利用については、授業実習科目・課題の担当教員と工作センター間で、使用する工作機械と具体的な期間や時間について打合せを行う。事前の打ち合わせで時間外利用の詳細が決められた場合は、日時の予約をした上で研究室との連携を図りながら学生利用をさせる。

③工作機械の使用条件 (F)

- ・工作機械を使用する際は、事前に説明会・講習会等を受講させ、工作センターの仕様にあった加工方法で安全に使用させる。

④立ち会いの必要な工作機械の使用 (F)

- ・これまでの改善により工作機械の安全性は向上したが、学生の単独使用を不可とする危険性の高い工作機械については、工作センタースタッフが立ち会いのもと使用させる。

⑤その他 (F)

- ・工作センターではさまざまな学科の授業実習科目・課題が行われており、利用者の傾向に応じて既存の使用システムを再検討するとともに、引き続き、新しく安全性の高い工作機械の導入等のための情報収集を行う。

(上野毛)

①工作機械の講習会の実施 (F)

- ・基礎的な工作機械の利用は、各研究室と事前打ち合わせの上、学年単位または授業単位で講習会を実施する。その他工作機械は、教員や学生の要望により実施する。

②塗装機械室のエア配管の見直し (F)

- ・5台ある各塗装ブースにて、エア供給ができるようにする。
- ・全ブースでの、スプレーガンとエアブラシの使用が可能となる。

③大型NCルーターの稼働 (F)

- ・2023年度後期導入時から試験的稼働しているが、2024年度より本格的に稼働予定
- ・付帯機材の貸し出し。(パソコン、インパクトドライバー、マルチツール等)
- ・集塵、安全柵等の作業環境の整備。

【CMTEL】

①基本方針 (F)

- ・「素材の資料館」として、Color (色)・Material (素材)・Trend (傾向) の情報収集、発信を行い、学内だけでなく学外のクリエイター、企業へ向けでも開かれた施設運営を目指す。
- ・学生が新しい素材・制作方法に巡り合うきっかけを提供することに重きを置く。相談窓口を設け、展示やイベントを企画することで、学生が自身の創作に適した素材を探し易い環境をつくる。

②展示収蔵品の収集、充実、管理 (F)

- ・素材、資料、トレンド資料の収集、既存展示品、参考作品の更新・追加
- ・既に提供いただいている素材を棚に置いたままでなく、目につきやすく手に取りやすい配置・展示方法を模索する。

③学生サービスの充実 (F)

- ・学生の制作活動に対するサポート (制作相談窓口/制作の手助け/企業への問い合わせ)
- ・全学生対象に、ワークショップ、トレンドセミナー等、素材や技術の知識を育めるようなイベントを開催する。
- ・導入機材の事前レクチャー、利用予約体制見直し
- ・学生向け CMTEL 見学ツアーの開催 (学科単位・研究室対象等、要望があれば随時実施)

④学内外へ向けた広報活動 (E)

- ・広報ツールを制作し活用する。(パンフレット制作・ホームページに加え、CMTEL NEWS 発行、X・Instagram からの情報発信)
- ・学外見学者、企業、利用者受け入れ
- ・オープンキャンパスイベントの実施
- ・学校見学者へ向けたワークショップの実施 (中学生、高校生対象/要請があれば随時)

⑤授業・各学科・各課への協力 (F)

- ・施設の授業利用 (貸切可能)
- ・マテリアルサンプル貸出 (研究室単位、教員または学生 (講評会の参考用) への貸出)
- ・授業・ゼミ向けワークショップ・レクチャー開催 (要望があれば随時実施)
- ・各学科・各課からの制作依頼への協力 (オープンキャンパス展示等)

【FabCAVE】

①ファブリケーション施設運営 (F)

- ・初心者に対する、3D プリンター等による制作支援を行う。

②映像センターや CMTEL との連携 (F)

- ・映像センターにある 3D 作成ソフトの入った PC での 3D データを作成。

ワークショップ等の協力など。

③その他 (E)

- ・各棟ギャラリーや美術館の展示のVRアーカイブ化 など。

【上野毛スタジオ】

①運営方針 (F)

- ・上野毛スタジオが管理する5つのスタジオ施設を主体として、制作環境を学生に提供する。また機材スタジオを整備し、各科授業及び学生に機材を提供し、有効活用してもらう。
- ・各スタジオは予約制のスタジオと自由使用のスタジオとし、制作に必要な機材貸出を行う。

②講習会の開催 (F)

各スタジオの利用・制作に必要な知識や技術について、講習会を開催する。

- ・写真スタジオ (ストロボ撮影等)
- ・撮影スタジオ (LED 定常光照明の撮影等)
- ・録音スタジオ (録音とミキシング等)
- ・映像スタジオ (照明、バトン、PA 等)

両キャンパスでプロジェクションマッピングの導入勉強会を開催

③機材の整備 (F)

上野毛スタジオ今後の発展を考えつつ、統合デザイン学科と演劇舞踊デザイン学科の2学科と相談の上、上野毛スタジオにとって必要な施設、機材を整備する。

◆附属アートアーカイブセンター

①資料活用 (F)

- ・授業利用の促進 (所員ほか、関心ある教員への啓蒙とサポート)
- ・資料閲覧の促進 (本学学生・院生の閲覧促進)
- ・資料展の開催 (主催および協力)
- ・研究促進 (科研費や学内共同研究サポート)
- ・外部機関への画像データ貸出

②資料整理 (F)

- ・2024年4月から2年間の資料貸出停止期間を設け、資料の公開に向けての調査と整理
- ・LGTV (大ガラス東京ヴァージョン) テストピースのアーカイブ化

③資料の収集と拡充 (F)

- ・LGTV テストピース制作に関する資料収集
- ・もの派アーカイブへの資料収集拡充
- ・秋山邦晴資料など

④AAC の活動内容および研究成果の学内外への発信 (E)

- ・第7回 AAC 主催シンポジウムの開催

- ・ AAC 研究紀要 6 号制作
 - ・ 資料展開催 (年 3 回)
 - ・ オリジナルサイト、SNS で、学生への利用促進のための情報発信
 - ・ 資料展やシンポジウムの学内外広報 (メディア対応含む)
- ⑤ 収蔵庫の環境整備 (IPM 構築) (F)
- ・ 温湿度管理、清掃、整理整頓等 (日常)
 - ・ 空調関連設備の改善
 - ・ 関係各課との連携強化

◆アートとデザインの人類学研究所

- ① 芸術のもつ可能性を人類学的な視点から捉え直すとともに、人間の表現の根源を探求し、広義の地球環境 (動植物との関係や災害などの気象変動も含む) としての「土地の力」を再発見する (E)
- ② 本学における人文諸科学的な叡智を結集する場として、学内研究事業と連携を図りながら、授業、研究会、シンポジウム、展覧会の開催などを通じて、領域横断的に本学のアートとデザインを結ぶ拠点として活動を展開する (E)
- ③ 卓越した研究成果の持続的創出を図るため、科研費等をはじめとする外部資金獲得に向けて組織的に検討を行い、その規模を拡大しながら研究資金の獲得および研究環境の充実を目指していく (F)
- ④ 海外研究機関、研究者との協働により、近年ますます注目を集めている「Art Anthropology」「Design Anthropology」の学問分野において、今後国際的な研究拠点となるような研究体制を整える (A)

(2) 管理運営面の推進計画

◆キャンパス計画室

- ① 上野毛キャンパス：再整備実施及びそれに伴う調整対応 (G)
- ・ 上野毛新棟新築工事の実施とその調整を行う。
 - ・ 世田谷区駒沢通り拡幅工事の実施に向けた調整を行う。
- ② 八王子キャンパス：大規模工事及び大規模修繕工事の実施及びその調整 (G)
- ・ デザイン棟増築工事の実施及びその調整 (2024 年 7 月迄)
 - ・ 絵画棟における外壁等大規模修繕工事の実施及びその調整 (2024 年 1 月～9 月)
 - ・ 2025 年度修繕工事の選定及び実施準備
- ③ 八王子キャンパス：インフラ、災害対策等の再点検を行い、再整備を行う (G)
- ・ 雨水排水の公共下水接続における切替工事実施及びその調整
 - ・ 土砂災害警戒区域に関する対応の検討と調整を行う。
 - ・ 敷地測量図の再整備 (測量の実施) を行う。
- ④ 八王子キャンパス：施設・設備に関する改修整備の対応 (G)
- ・ BLUECUBE の運用方針決定後における改修の対応
 - ・ 絵画棟教室等改修の実施及びその調整対応

- ・空調大規模更新工事、及び省エネに伴う学内LED化工事の推進を行う。
 - ・アートテークギャラリーの展示用吊物設備計画及びその調整
- ⑤施設整備に関する中期的計画案を策定する (G)
- ・両キャンパスにおける施設・設備面について、庶務課、総務課、管理委託業者と連携協議し、改修、更新の優先事項を含めたリストアップを行う。
 - ・持続可能な中期改修、更新計画を策定し、提案を行う。
 - ・中期的計画に基づいて予算申請を行う。

◆大学戦略室

- ①中長期計画の見直し (A) ~ (I)
- ・2025年度中期計画の改訂を行う。
- ②組織の見直し (F)
- ・効率性、危機管理、学内資源配分を意識した組織への見直しを行う(事務組織・附属施設・附置研究所等)。
- ③教育プログラムの提案 (C)
- ・専門性を中心に据え、多様な学生が選択可能な授業等を提供する教育プログラムの提案を行う。
- ④防災対策 (I)
- ・防災マニュアルの改訂
 - ・危険物・箇所の再確認
- (大学史担当)
- ①大学史資料の確認と整理・保存 (E)
- ・上野毛キャンパス3号館、図書館地下倉庫、八王子キャンパスメディアセンター、本部棟1階倉庫に分散している資料の確認と整理
- ②90周年に向けた「年報」の作成準備 (E)
- ・認可関係の公文書の抽出・収集・裏付
 - ・50年史、80年年表の精査
 - ・公文書に基づいた本学年表の作成
- ③本学に関わる資料収集 (E)
- ・学内資料・刊行物のリスト化、デジタルデータ化
- ④他大学・他アーカイヴ機関とのネットワーク構築 (E)
- ・学外関係機関との意見交換と情報収集
 - ・大学戦略としての大学史の活用・発信準備
- ⑤大学史資料委員会設置に向けた準備 (F)
- ・100年史編纂と大学史資料室の常設を見据え、大学史担当教員を中心に、各専門分野の教職員との協力体制の整備

◆人事部

【人事課】

- ①評価制度の導入（3～5年以内）（I）
 - ・教員評価制度導入計画について提案
- ②魅力ある職場づくりによる多様な人材の確保（I）
 - ・先輩職員を中心とした新卒採用の実施
 - ・若手職員によるプロジェクト活動の実施
 - ・研修制度の体系化と自己研鑽の推奨
 - ・障がい者雇用の推進
- ③定期的な異動、評価制度の見直し、専門職などの人事制度の確立（3～5年以内）（I）
 - ・総合職のジョブローテーションと専門職及びアソシエイト職の有機的な運用
 - ・納得感のある評価制度の提案

【経理課】

- ①財務報告の信頼性の確保（I）
 - ・正確な会計処理を行うことにより、財務報告の信頼性向上及び持続性の確保を図る。
- ②学納金管理システムの更新（I）
 - ・2024年度～2025年度に掛けて汎用的な学納金管理システムに更新を行うことにより、業務効率化を図りつつ、学生の納付手段の利便性向上を実現する。
- ③固定資産管理システムの見直し（I）
 - ・既存システムの更新を含め、業務フローの見直しを含めて検討し、業務の効率化を図る。
- ④財務の継続的な安定と、収入の基盤強化（I）
 - ・90周年事業に向けた寄付金募集の準備・発送を行い、寄付金の拡大を目指す。
 - ・資産運用収入の10%増、寄付金収入の恒常的な2019年度比30%増を目標とする。
- ⑤予算制度のPDCAサイクルの確立（I）
 - ・各学科・各課の申請する予算科目を追加するなどの改訂をし、PDCAサイクルの確立による費用対効果の測定の実施とフィードバックの徹底を図る。

◆総務部

【総務課】

- ①事務組織の見直しによる体制の確立（I）
 - ・理事長及び理事の意思決定サポート体制の整備
 - ・事務組織におけるガバナンス体制の再整備
 - ・各委員会組織の権限・位置等の再点検
 - ・現行規程の点検・改正及び制定
 - ・出資会社の運営

②働きやすい職場環境の整備 (I)

- ・情報共有化に向けた学内体制の整備

③危機管理体制の確立 (I)

- ・危機管理上の課題に対する検討
- ・災害時マニュアルの見直し、周知
- ・避難訓練の実施

③上野毛キャンパスの再整備 (G)

- ・駒沢通り拡幅にかかる世田谷区との折衝サポート
- ・新棟建設に向けた各種調整業務
- ・施設・設備・備品管理の円滑な実施
- ・八王子キャンパスとの連携

【庶務課】

①省エネルギー及び節電を推進する (G)

- ・八王子キャンパス、町田市にある本学施設における設備の改修や機器備品更新の際、省エネルギーや節電、コストパフォーマンス、SDGs、高騰を続ける光熱水費の抑制などに配慮する。
- ・省エネルギー推進に向けて、施設・設備等のハード面はキャンパス設計室が、管理・運用・啓発などのソフト面を庶務課で役割分担する。
- ・化石燃料由来のエネルギー以外の取引について比較検討する。

②利用者目線に立ち、ファイリティ・マネジメントの観点から、共用部・共通施設の充実と利用しやすさ、安全性に配慮した環境整備及び災害対策の実施・対応を行う

(G)

- ・学生の居場所の現状を把握し、必要に応じて見直す。
- ・利用者目線で共用部、共通施設の什器等の再確認を行い、メンテナンスや更新を検討する。
- ・学内樹木の伐採を含めた緑地維持・管理の計画を見直す。
- ・防火対策推進を継続し、防災対策の検討・計画策定を行う。

③庶務課の業務内容の再確認と見直し (I)

- ・時給単価の増額による人件費等の支出増加に伴う、業務委託費や業務内容等を再検討し、機械や職員に置き換えられる部分を見直す。
- ・備品シール発行から棚卸しまでの手順を見直す。
- ・学内備品の貸出・返却や管理方法の見直し、改善する。
- ・経理課の消耗品支出管理に対応して、物品購入方法等を見直す。

④八王子キャンパス整備計画（第一期～第三期）及びそれ以前に竣工した建物・設備の見直しを含めた、維持管理方法や用途を再検討する (G)

- ・「デザイン棟」増築工事完成に伴う建物付属設備等の整備対応、同棟既存エリアの、2025年度に向けた改修工事対応を行う。
- ・学生寮の入寮開始から4年目を迎えて、年間設備点検スケジュール等の再確認を行

- う。Wi-Fi トラブルの根本的解決を完了させ、今後の再発防止策と対策を検討する。
- ・既存建物の維持管理方法や用途を再検討する。
- ⑤施設整備に関する中期的計画案を策定する (G)
- ・八王子キャンパス、町田市にある本学施設における設備等について、キャンパス設計室、管理委託業者と連携協議し、改修、更新の優先事項を含めたリストアップを行う。
 - ・持続可能な中期の営繕・点検計画を策定し、提案を行う。
 - ・上記の中期的計画に基づいて予算申請を行う。

◆広報部

【広報課】

- ①入学試験に関する市場調査ならびに諸統計などの取集・分析 (D)
- ・入学試験市場に関する情報収集、分析、調査、統計から基本情報を整備／入試制度への提案
 - ・入試統計情報の分析が行えるデータベース構築
- ②学生募集に関する企画と提案 (D)
- ・志願者実数の確保とともに、質の高い学生獲得に向けた広報プランの作成と実行
 - ・志願者の数と質のアップ（最低目標＝実数で対前年 100%以上、努力目標＝総数で 110%以上、教育成果の出やすい層の獲得）
- ③広報メディアのクオリティアップ (E)
- ・各ステークホルダーとのコミュニケーションフロントになる媒体（WB サイト／SNS 等）を企画・運営
 - ・「世界に存在感のある大学となる」ためのブランディングメディアの確立
 - ・志願者獲得につながる本学媒体（大学案内／入試問題集等）の制作
 - ・志願者獲得と大学の価値浸透につながる媒体（TAMABI NEWS／サブパンフ等）の制作
 - ・志願ターゲットにあわせた SNS やアプリ、各種紙広告媒体への出広と効果検証のサイクルを確立
- ④大学広報の強化 (E)
- ・志願者数の確保とともに、質の高い学生獲得に向けた、オープンキャンパス、進学相談会、高校ガイダンス、学校見学や高校訪問の実行
 - ・21 世紀の美大イメージの確立による大学のブランド価値向上にむけた取り組みプランの作成と実行
 - ・パブリシティ獲得にむけた情報発信
 - ・番組制作やテレビ CM 等、メディア各社の対応

◆社会連携部

【社会連携課】

- ①社会や地域との共創、アートやデザインによる社会課題の解決や、学生の創造的学びに資する社会連携活動の実施 (E) (H)

- ・団体・企業・地域などと共働・共創し、新たな価値を生む社会連携プロジェクトにするためのディレクションに力点を置く
 - ・地域社会との連携・社会貢献活動として地域の大学コンソーシアムへ参加し、取り組みを実施
 - ・東京都、アーツカウンシル東京と連携した小中学生をターゲットにしたワークショップを実施
 - ・「TUB」を活用し、幅広い層に向けたデザインやアートの教育プログラムの提供および取り組み・成果を積極的に発信
 - ・若い芸術家たちの作品発表の場である「Up & Coming」の運営を通じて、広く美術・デザインの魅力を社会に対して発信
- ②多摩美術大学クリエイティブリーダーシッププログラム (TCL) の運営と情報発信 (E) (H)
- ・プログラムのアップデートとともに、社会実装までを支援できる場と、プログラムの多層性・総合的ブランド力へ還元できる仕組みの点検と醸成
 - ・TCLの目指す価値創造の周知に資する情報発信の実践
- ③東工大・一橋大との「価値創造人材育成拠点の形成事業 Technology Creatives Program (テックリ)」の実施と展開 (E) (H)
- ・5か年計画の4年目(開講3年目)として、東工大・一橋大の担当教員と共に各パートのより有機的な繋がりにより、プログラムを進展させる
 - ・国際的な視野のもと、社会変容の中で求められる人材育成をリードすべく、国内外の動向や要請を踏まえた調査研究を展開
 - ・オンラインコンテンツなどによるプログラムの全国普及を推進
- ④サーキュラーオフィス (E) (H)
- ・SDGs時代の循環型社会・経済モデル実現へ向けた取り組みの推進
 - ・共創プロジェクト「すてるデザイン」の推進と運営への支援
 - ・サーキュラーオフィス主体による共通教育科目 ISSUESにて学内教育展開
 - ・識者によるトークイベントの定期的な実施による大学として関連知見の蓄積と共有

【生涯学習センター】

- ①センターリニューアルを見据えた運営体制の見直し (E)
- ・センター運営システムの再検討
 - ・学内への周知、安定した協力体制の構築
 - ・広報手段の見直し(公式HPリニューアル等)
 - ・センター活動記録のアーカイブ化、とりまとめ
- ②教員や本学学生にとって研究・教育の一助となる機会や検討の場の設置 (H)
- ・各学科への聞き取り調査に基づく企画検討
 - ・本学教員の取り組みや研究内容を活かした、教員や大学への将来的な還元となるような講座立案を目指す
 - ・上記のアウトプットを、本学学生が享受できる仕組みづくり

③社会や地域への教育研究内容の伝達と浸透を目的とした生涯学習プログラムとしての
情報発信の拡充 (E)

- ・地域社会への浸透・新規受講生層の開拓
- ・特色あるシリーズ講座（こども講座「あそびじゅつ」「宅配便あそびじゅつ」、大規模講座「〇〇世紀の芸術家列伝」等）の継続的な開催と今後の展開に向けての検討
→リピーター層の確保

④講座運営費の再点検 (F)

- ・年間講座運営費の記録、見える化
- ・講座毎の収支の分析
- ・運営費削減方法を模索（在庫の活用等）し、次年度の具体的な削減%の方針を策定する

以 上